

個別テーマIR Day 2

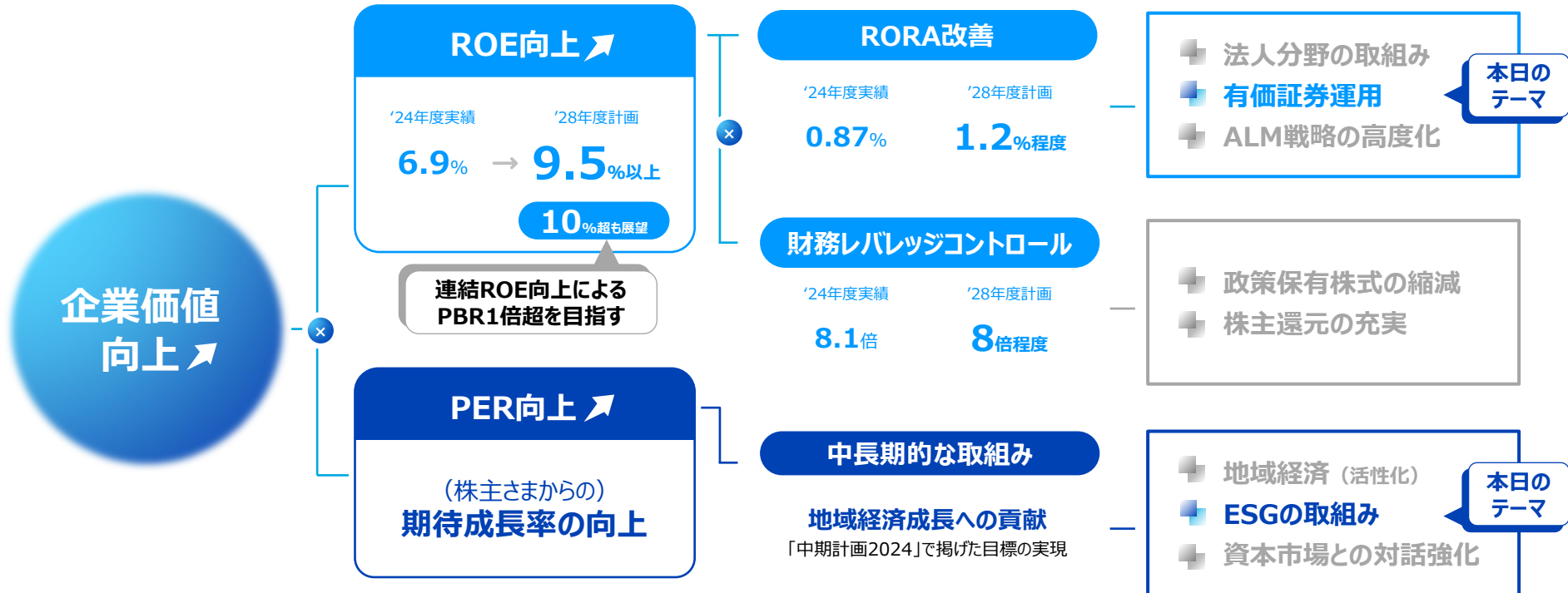
- I.取締役会機能
- II.有価証券運用

2025年9月24日



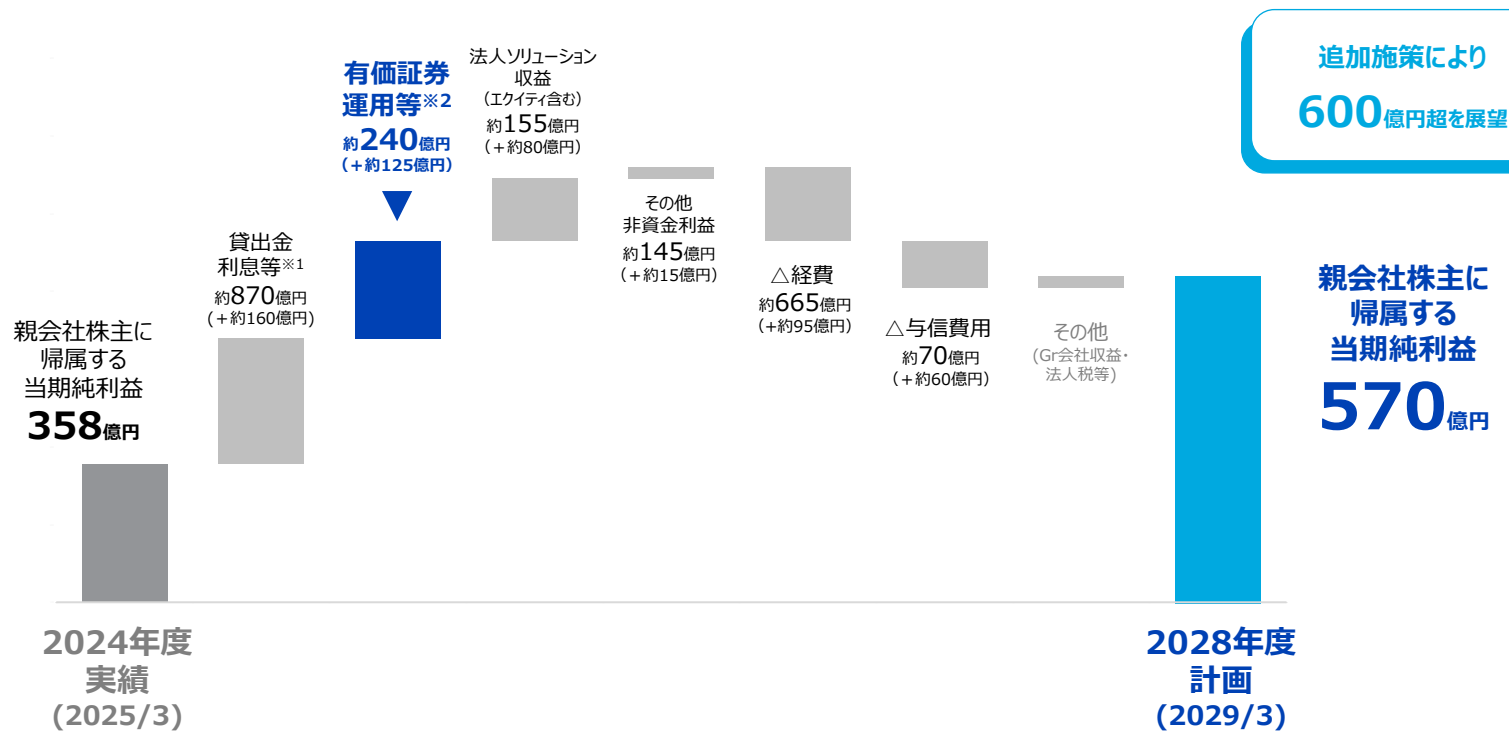
目次

| | |
|-----------|--------|
| I.取締役会機能 | … p.5 |
| II.有価証券運用 | … p.10 |
| III.最後に | … p.17 |



(注)現時点で当社が認識する資本コスト 6%~10%程度

中期計画2024の目指す水準



(※1)外部調達費用(預金含む)控除後、(※2)外部調達費用控除後、売買損益含む

未来を、ひろげる。



I .取締役会機能

登壇者のご紹介

しんめん よしのり

新免 慶憲

1956年10月26日生



所有する当社の株式数
5,400株

在任**5年**
(銀行在任期間3年含む)

略歴、当社における地位（重要な兼職の状況および担当）

- 1980年4月 日本銀行入行
- 2007年3月 日本銀行京都支店長
- 2009年7月 日本銀行検査役
- 2010年11月 社団法人日本証券アナリスト協会参与
- 2011年10月 公益社団法人日本証券アナリスト協会事務局長
- 2015年8月 公益社団法人日本証券アナリスト協会代表理事
- 2017年8月 公益社団法人日本証券アナリスト協会理事
- 2020年6月** 株式会社広島銀行取締役（社外）
- 2023年6月** 当社取締役（社外）（現任）

選任理由等

日本銀行および公益社団法人日本証券アナリスト協会にて培われた金融全般における高度な専門性と豊富な実務経験を有しております。2020年6月より株式会社広島銀行取締役（社外）、2023年6月より当社取締役（社外）に就任しており、引き続きその高度な専門性や高い見識を活かし、経営陣から独立した立場で当社取締役会の意思決定機能や監督機能の実効性強化に貢献できる人物と判断し、社外取締役として選任しております。

(注) 2025年9月24日時点

まつむら

松村 はるみ

1954年3月25日生



所有する当社の株式数
1,500株

在任**2年**
(銀行在任期間1年含む)

略歴、当社における地位（重要な兼職の状況および担当）

- 1976年4月 株式会社西武百貨店（現株式会社そごう・西武）入社
- 2004年6月 株式会社アンリ・シャルパンティエ（現株式会社シュゼット）代表取締役
- 2011年7月 株式会社住生活グループ（現株式会社LIXIL） 取締役専務
株式会社LIXIL 取締役専務
- 2016年11月 株式会社LIXILグループ（現株式会社LIXIL） 執行役専務
株式会社LIXIL 取締役専務
- 2019年7月 株式会社ロック・フィールド取締役（社外）
- 2022年6月 株式会社上組取締役（社外）（現任）
- 2023年6月** 株式会社広島銀行監査役（社外）
- 2024年6月** 当社取締役（社外）（現任）

(重要な兼職の状況)
株式会社上組取締役（社外）

選任理由等

企業経営者として豊富な経験とその経験を通して培われた高い見識を有しております。2023年6月より株式会社広島銀行監査役（社外）、2024年6月より当社取締役（社外）に就任しており、引き続きその豊富な経験や高い見識を活かし、経営陣から独立した立場で当社取締役会の意思決定機能や監督機能の実効性強化に貢献できる人物と判断し、社外取締役として選任しております。

(参考) 当社の取締役会構成および経営陣のスキルマトリックス

取締役会構成



取締役（社内）**5名**



取締役（社外）**2名**
(うち女性1名)

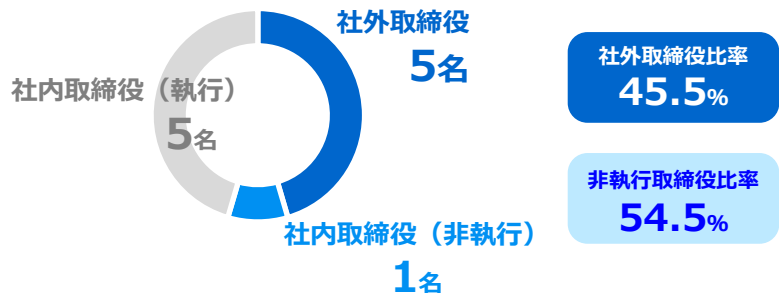


取締役監査等委員（社内）**1名**



取締役監査等委員（社外）**3名**
(うち女性1名)

(独立) (独立) (独立)



経営陣のスキルマトリックス

社内取締役

| 氏名 | 地位 | 経験を有する分野 | | | |
|-------|------------|---------------|----------|------|------------|
| | | 経営戦略・サステナビリティ | 法務・リスク管理 | 営業戦略 | DX・IT・システム |
| 池田 晃治 | 代表取締役会長 | 👤 | 🛡️ | 📈 | 💻 |
| 部谷 俊雄 | 代表取締役社長 | 👤 | 🛡️ | 📈 | 💻 |
| 清宗 一男 | 取締役専務執行役員 | 👤 | 🛡️ | 📈 | |
| 横見 真一 | 取締役専務執行役員 | 👤 | | 📈 | |
| 廣江 裕治 | 取締役専務執行役員 | 👤 | | 📈 | 💻 |
| 青木 龍一 | 取締役（監査等委員） | | 🛡️ | 📈 | |

社外取締役

| 氏名 | 地位 | 特に期待する分野 | | | |
|--------|------------|---------------|-------|-------|------------|
| | | 企業経営・サステナビリティ | 経済・金融 | 財務・会計 | DX・IT・システム |
| 新免 慶憲 | 取締役 | | 🏢 | | |
| 松村 はるみ | 取締役 | 👤 | | | |
| 谷 宏子 | 取締役（監査等委員） | | | 📊 | |
| 北村 俊明 | 取締役（監査等委員） | | | | 💻 |
| 大隈 侑仁 | 取締役（監査等委員） | 👤 | | | |

社外取締役インタビュー



「統合報告書2025」にて対談を行っております。
是非、ご覧ください。

Q1 中期計画初年度の評価と、「活力ある地域」実現への期待と課題を教えてください。

新免: 2025年3月期の決算は、過去最高の業績となりました。これは政策金利の引き上げという追い風もありましたが、本部や営業店幹部の的確な支援を得た最前線の担当者の買入金利引き上げの取組みの成果であり、お取引先のご理解の賜物だと思います。

松村: 決算が示すとおり、業績は非常に好調で部長が中期計画初年度決算内容を80点と評価した点も納得できるものです。マイナス20点は「バックキャスト思考でのチャレンジの浸透」や「企業文化の家客意識」がまだ十分でなかったものと聞いています。私は、バックキャスト思考浸透に向けて、部長社長自らが全国の拠点を訪問し、10年後における「地域」および「当社グループ」の目指す姿と「中期計画2024」の推進戦略を説明し、現場と対話しながら各現場組織に自分事化して浸透させようと努力する

姿勢を高く評価しています。この成果の一例として、2028年度までの環境ファイナンス融資目標の1,800億円を初年度で達成し、新たに3,000億円へと大幅に上方修正できた事は、経営層と現場の想いが一致した法人ソリューションの現場力を証明する好例であると評価しています。このような好事例を供覧し、積み上げていくことを期待します。

新免: 取締役会では、「地域経済の活性化」を絶えず意識して議論を積み重ねています。現在の中期計画は10年先までも見据えたものですが、次世代に対しては、私は地域の人口減少が止まらないとの懸念の下で、20年、30年先の地域の未来翻りも考える必要があるのではないかと申し上げています。

広島は製造業が強い地域でコスト削減に法人のお客さまは注力されてきました。しかし、広島経済が将来においても活力を保つには、生産性の高い事業領域に人材や設備投資をより集中させ、新製品やサービスの創出を図る大膽な経営資源の再配分が不可欠だと考えます。

ひろぎんグループでは、スタートアップ育成イベ

(参考) コーポレートガバナンスの取組み

2020年度

- ❑ 持株会社体制移行
- ❑ 経営理念制定
- ❑ コーポレートガバナンス基本方針制定
- ❑ 監査等委員会設置会社移行
- ❑ 社外取締役3名（女性取締役1名）
- ❑ 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針の制定

2021年度

- ❑ コーポレートガバナンスコード改訂を踏まえた基本方針改正
- ❑ 取締役のスキルマトリックス新規制定
- ❑ 取締役会における経営の重要なテーマディスカッション等の実施
- ❑ 取締役会運営の高度化（定例的な業務執行報告と重要な議案等の区分に応じた議事時間の配分）

2022年度

- ❑ 持株会社の社長と銀行の頭取の兼務解消
- ❑ スキル・マトリックスの高度化
- ❑ 執行側の事前検討プロセスに関する社外役員への情報共有の充実（経営会議等の資料・議事録の事前共有）
- ❑ 女性管理職比率の目標設定

2023年度

- ❑ パーパス制定
- ❑ 社外取締役4名（女性取締役1名）
- ❑ 経営幹部育成プロセスに関する議論強化
- ❑ 社外役員との意見交換会の新設
- ❑ 女性管理職比率等の目標引き上げ

2024年度

- ❑ 社外取締役5名（女性取締役2名）
- ❑ 執行側の事前検討プロセスに関する社外役員への説明強化
- ❑ 当社初となる女性執行役員の登用
- ❑ 金銭による業績連動報酬制度の見直し（新中計に即した金額バーの見直し）

2025年度

- ❑ 金銭による業績連動報酬制度の見直し（ROEおよびESG指標の追加等）
- ❑ 子会社広島銀行の監査等委員会設置会社への移行

Ⅱ. 有価証券運用

株式会社広島銀行

取締役常務執行役員

箱田 浩二

資金証券部長

諸隈 章真

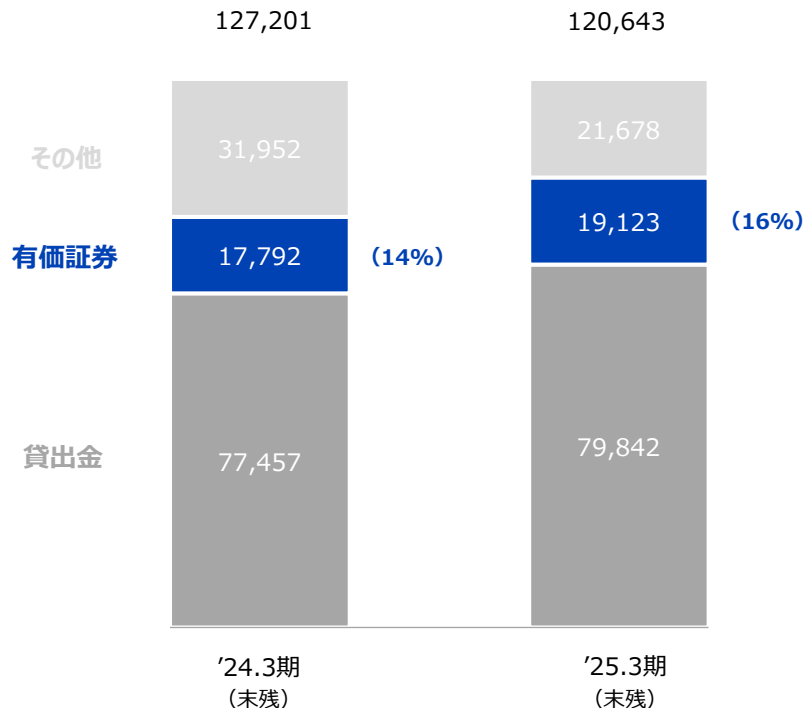
資金証券部 市場企画課長

渡辺 幹洋

バランスシート・損益の状況

(億円)

バランスシート (資産) 広島銀行単体



損益の状況 広島銀行単体

| | '24.3期 | '25.3期 | 前年比 |
|-------------------|------------|--------------|------------|
| コア業務粗利益 | 920 | 1,065 | 145 |
| うち資金利益 | 741 | 859 | 118 |
| うち有価証券利息配当金 | 213 | 287 | 74 |
| 円貨 | 112 | 143 | 31 |
| 外貨 | 101 | 144 | 43 |
| うち外部運用収益・△外部調達費用等 | △ 254 | △ 232 | 22 |
| うち外貨 | △ 282 | △ 253 | 29 |
| うち外貨有価証券見合い | △ 137 | △ 157 | △ 20 |
| コア業務純益 | 389 | 490 | 101 |
| 国債等債券関係損益 | △ 24 | △ 62 | △ 38 |
| 売却益 | 58 | 29 | △ 29 |
| 売却損 | △ 82 | △ 89 | △ 7 |
| 償却 | 0 | △ 2 | △ 2 |
| 実質業務純益 | 365 | 427 | 62 |
| うち株式等関係損益 | 82 | 55 | △ 27 |
| 売却益 | 104 | 57 | △ 47 |
| 売却損 | △ 18 | 0 | 18 |
| 償却 | △ 3 | △ 1 | 2 |
| 経常利益 | 314 | 477 | 163 |
| 当期純利益 | 265 | 329 | 64 |

【有価証券】 ※内部管理計数ベース

| | | | |
|----------------|-------|-------|------|
| 資金利益 | 63 | 125 | 62 |
| (コア業務純益に対する割合) | (16%) | (26%) | (9%) |
| 売買損益 | 62 | △ 3 | △ 65 |
| 合計 | 125 | 122 | △ 3 |

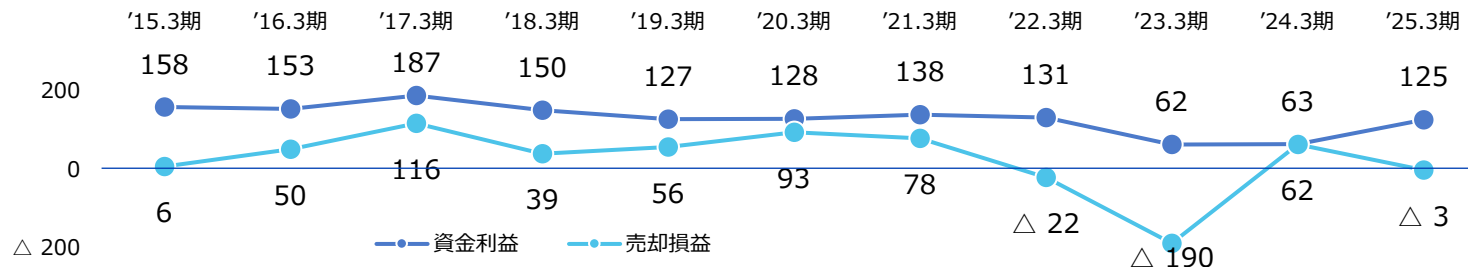
ヒストリー

有価証券損益推移

マイナス金利が長期化し徐々に資金利益は低下

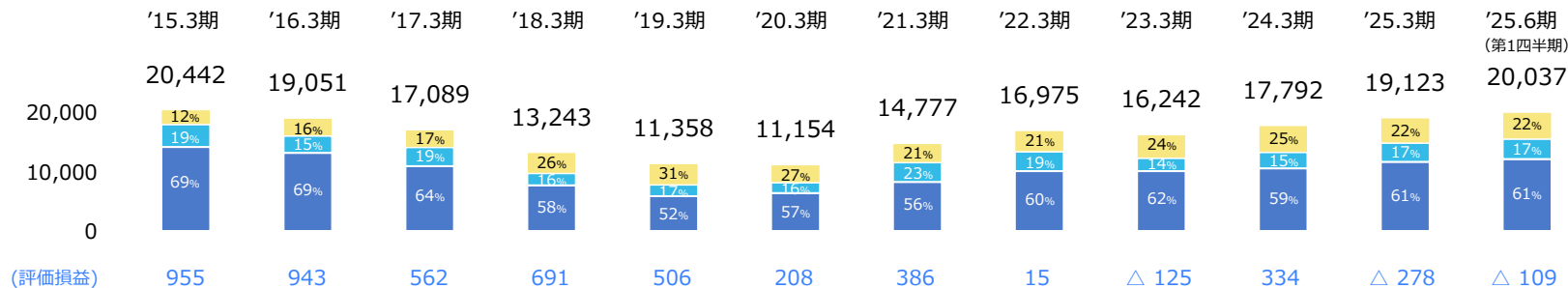
外債ロスカット

(億円)



有価証券残高推移 (末残)

マイナス金利環境下、低利回りの円債・外債を拡大したため金利上昇により損失拡大に至った



| | | | | | | | | | | | | |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 日10年金利 | 0.40% | △0.02% | 0.07% | 0.04% | △0.08% | 0.02% | 0.09% | 0.22% | 0.35% | 0.72% | 1.49% | 1.43% |
| 米10年金利 | 1.92% | 1.76% | 2.38% | 2.73% | 2.40% | 0.66% | 1.74% | 2.33% | 3.46% | 4.20% | 4.20% | 4.22% |
| 日経平均株価 | 19,206円 | 16,758円 | 18,909円 | 21,454円 | 21,205円 | 18,917円 | 29,178円 | 27,821円 | 28,041円 | 40,369円 | 35,617円 | 40,487円 |

課題の取組状況と今後の方針

課題 (2024年9月時点)

取組状況

今後の方針

全体方針

短期目線での運用に終始し、中長期的な観点が欠如

中計最終年度の目標達成に向けた投資を実施

中長期の観点から安定的かつ継続的に高い収益性が確保できるポートフォリオを再構築

ポートフォリオ

円債

- デュレーションが長く利回りが低い
- 特定の年限に残高が集中

- 金利上昇を想定するなか、デュレーションを短期化しつつ、利回り改善に向けた投資を実施

- デュレーションを意識しながらラダーポートフォリオの構築を進め、利回りを向上させていく

外債

- 逆ザヤの固定債が残存

- 逆ザヤの固定債を削減し、調達コストの変動に収益が左右されにくい変動債を拡大

- 変動債を中心に投資し、安定した収益の獲得を目指す

株式・投信等

- 株式資産（個別株・ETF等）の投資目的が曖昧
- パフォーマンス不芳銘柄が残存

- パフォーマンスが不芳な銘柄を段階的に処分した一方で、配当・含み益作りを目的に個別株等へ投資

- リスクアセットを有効活用し、中長期的な視点で超過リターンを狙った投資を行う

運用態勢

スタンス

- 明確な投資ポリシーがなく、目先の収益確保に注力
- 単年度計画達成に重点（単年度投資計画のみ策定）

- 複数年度（向こう3年）の投資計画を策定し、中長期的な視点で投資を実施

- 中長期の観点から安定的かつ高い収益性を確保できる運用をメインとしつつ、リスクシナリオを念頭に置いた投資を実施

体制・人財

- マーケット人財育成に向けた取組みが不十分
- 資金証券部内にミドルオフィスが存在

- 注力分野として人員を配置し、外部企業へのトレーニー派遣も実施
- ミドルオフィスを分離独立し、リスク管理体制を強化

- 戦略的な人員配置と積極的な外部企業へのトレーニー派遣を継続
* 人員: +7名、育成投資額: 1.5億円以上（中計期間中）

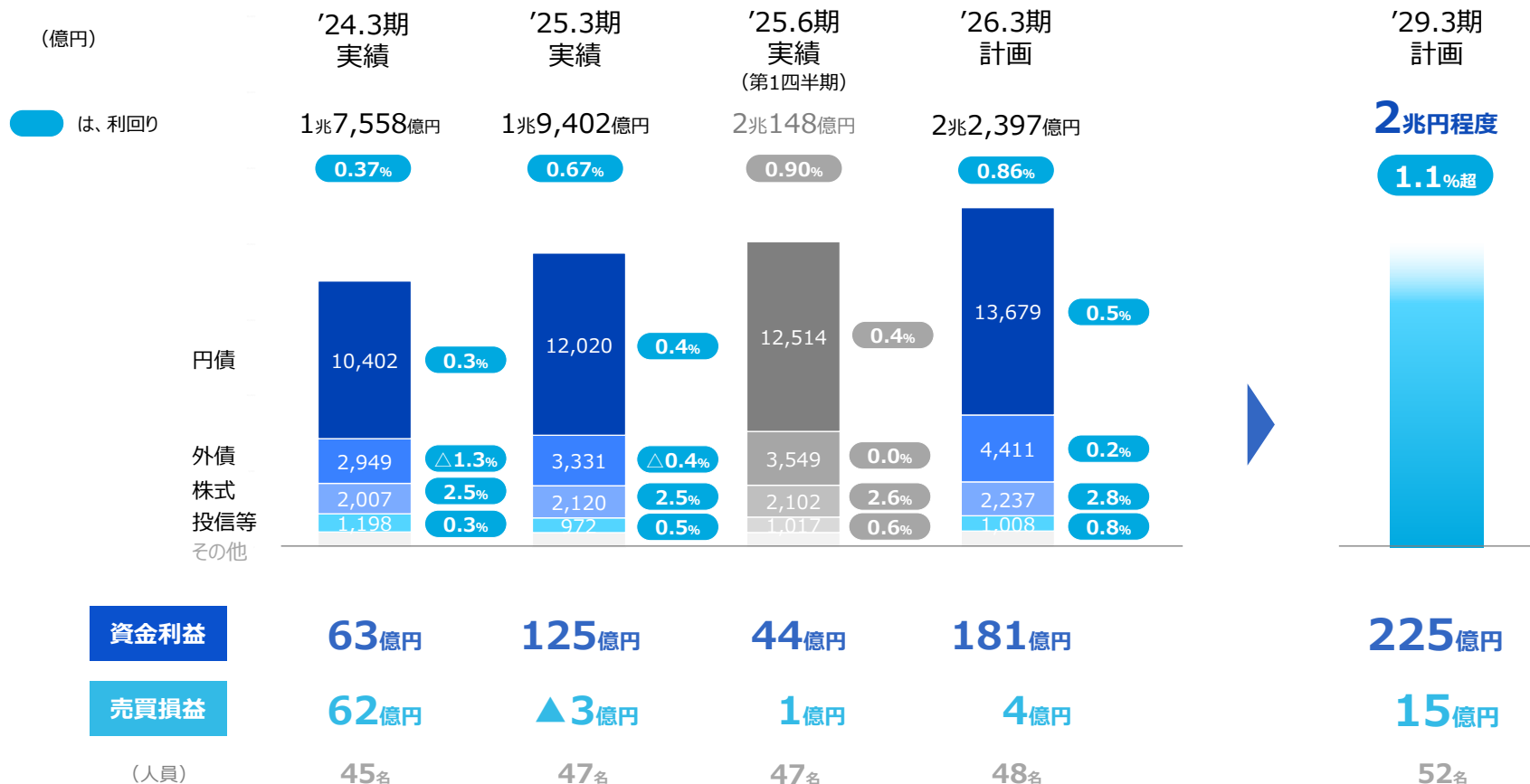
ガバナンス

- 中長期的な観点での資本配賦が行われていない
- 有価証券投資運営に係る課題について経営への情報提供が不十分

- 中長期的な観点で資本配賦を拡大
- 有価証券投資の状況を定期的に経営と共有

- 引続きポートフォリオ再構築に向けた状況等を経営と共有

有価証券ポートフォリオ計画



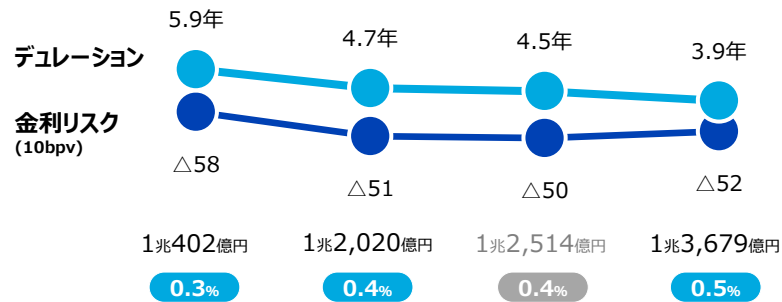
(注)内部管理計数ベース、残高は簿価ベース、利回りは外部調達費用考慮後、有価証券残高(全体)に政策投資含み、投信等に特定金銭信託含む

円債・外債の運用方針

円債

運用方針

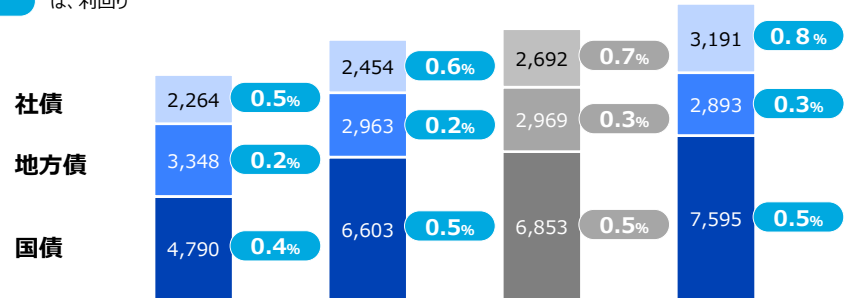
- デュレーションを意識しながらラダーポートフォリオの構築を進め、利回りを向上させていく



1兆402億円 1兆2,020億円 1兆2,514億円 1兆3,679億円

0.3% 0.4% 0.4% 0.5%

● は、利回り



'24.3期 '25.3期 '25.6期 (第1四半期) '26.3期 (計画)

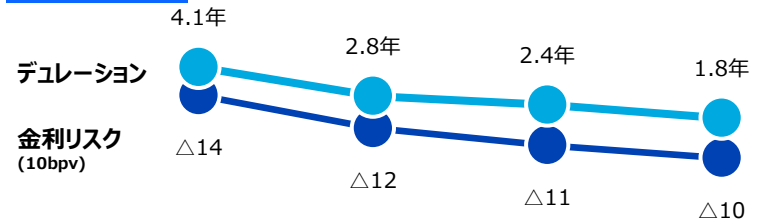
(注)残高は簿価ベース

外債

(億円)

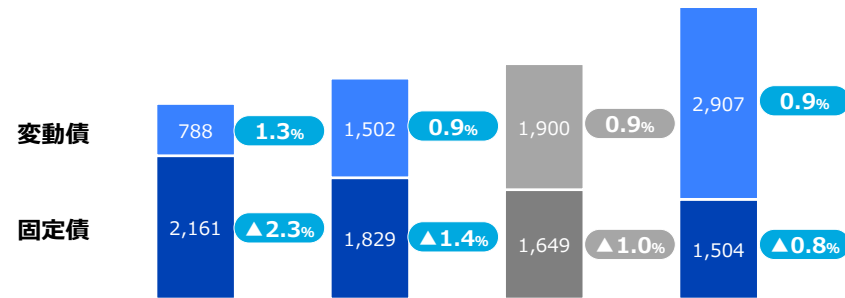
運用方針

- 変動債を中心に投資し、安定した収益の獲得を目指す



2,949億円 3,331億円 3,549億円 4,411億円

▲1.3% ▲0.4% 0.0% 0.2%



'24.3期 '25.3期 '25.6期 (第1四半期) '26.3期 (計画)

(注)残高は簿価ベース、利回りは外部調達費用考慮後

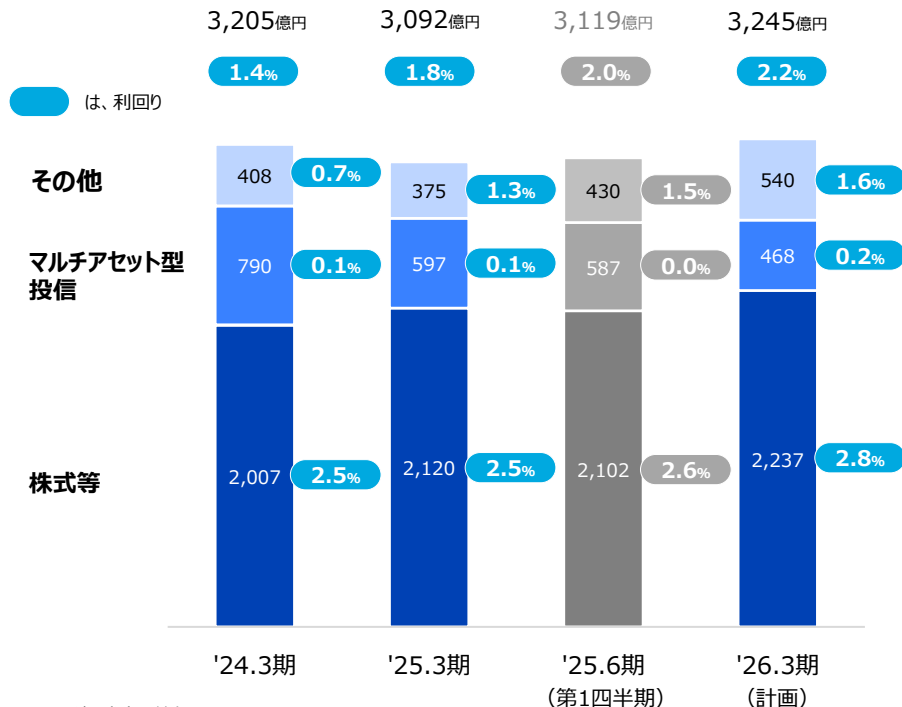
株式・投信等の運用方針

株式・投信等（政策保有株式除く）

（億円）

運用方針

- リスクアセットを有効活用し、中長期的な視点で超過リターンを狙った投資を行う



参考

<純投資株式の議決権行使基準>

- ✓ 投資家としての利益を最大化していく観点から、投資先企業の中長期的な企業価値の向上と持続的な成長に資することを目指し、一定の基準を定め、議案ごとに賛否を判断
- ✓ 特に次に掲げる項目については、以下の基準で判断

| （議案） | （議決権行使基準） |
|-----------|---|
| 剰余金処分 | <input type="checkbox"/> 配当性向 |
| 代表取締役選任議案 | <input type="checkbox"/> ROE |
| | <input type="checkbox"/> 社外取締役数・比率、 |
| | <input type="checkbox"/> 政策保有株式残高の純資産対比比率 |
| | <input type="checkbox"/> 女性取締役の選任 |

（注）残高は簿価ベース

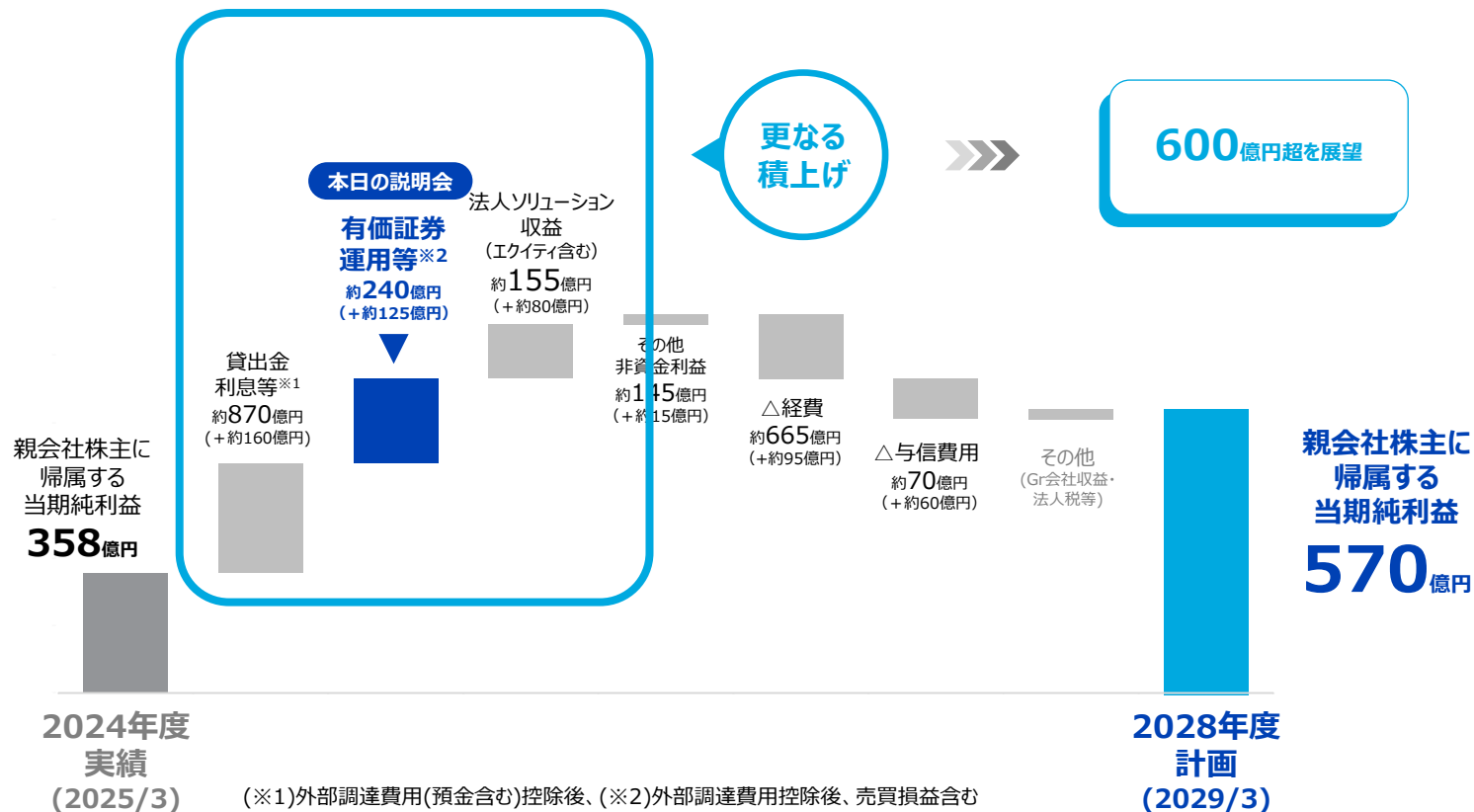
未来を、ひろげる。



Ⅲ.最後に

中期計画2024の目指す水準

▶ 本説明会においては、有価証券運用等の240億円達成に向けた取組みを説明。



本資料には、株式会社ひろぎんホールディングス（以下「当社という」）およびそのグループ会社（以下「当社グループ」という）に関連する予想、見通し、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、統合報告書をご参照ください。なお、本資料における将来情報に関する記述は、上記のとおり本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。また、本資料に記載されている当社ないし当社グループ以外の企業等にかかわる情報は、当社は、それらの情報を公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性について当社は何らの検証も行っており、また、これを保証するものではありません。

株式会社ひろぎんホールディングス 経営企画グループ

電話：082-245-5151(代表)

URL：<https://www.hirogin-hd.co.jp/>